

福島県南会津地域

重点プロジェクト⑧ 木造公共施設(木の町コミュニティ館(仮称))の整備

官民一体の取組を推進する森林・林産業振興拠点施設の整備

～みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション「きとね」～

現状と課題

当町は総面積の約92%が森林で、1950年代には優良広葉樹の生産地として、広葉樹大径材の製材をはじめ、家具、その他木製品製造等の木材加工業が発達した。しかし、現在では林産業従事者、素材生産量ともに大幅に減少したため、林産業従事者の確保と素材生産量の増加に向けて官民一体となって取り組む必要がある。

取組概要

当地域の川上から川下が抱える課題について、様々な対策を11の重点プロジェクトをはじめとするモデル事業により取り組み、その集大成として、川上から川下まで官民一体となって森林・林産業振興を推進するため展示・コミュニティ・研修・木育・木材情報・森林文化の発信機能を持たせた拠点施設を建設する。建設にあたっては、地域の木材を利用し地域加工ができる「縦ログ」や「重ね梁」を採用し、木材の利点や利用を総合的に広げる。

取組の成果・効果

町内のNPO法人がこれまでの経験や組織力を生かし材工分離発注により製材等を建築主体工事へ納入し、縦ログ、重ね梁を採用することで伐採から製材、加工、建設までのほぼ全ての工程を町内で完結している。館内には地域の広葉樹材等を活用し、町内事業者が製作した家具を配置し、多様な樹種とその加工技術の高さに触れることができる。また、当町公共施設では初のシェアオフィスを設け、民間事業者が連携できる施設とした。さらに、全ての人が親しみを持てるよう施設愛称を「きとね」とし、林業従事者の拡大や技術向上研修、木材利用に関する窓口、木育等の取組を推進する基盤が整備された。

取組が進んだ要因

当町ではこれまで公共施設整備で町産材を活用し、町内の木材サプライチェーンを構築してきたことが、スムーズな木材調達を可能とした。また、施設運営等について協議する分科会を設け、多様な事業者の議論により林産業を通じた地域全体の振興となる計画とした。

これから取組む地域へのアドバイス

大型木造建築において、山側の樹種や材寸を踏まえた構造計画とし、工法を工夫することで地域加工が可能となり、結果として資金流出を最小限に抑えるとともに地域振興に寄与する。小さな取組の積み重ねが地域におけるサプライチェーンの構築・確立につながる。



図1 縦ログと重ね梁が特徴的な外観



図2 縦ログ、重ね梁の施工



図3 木製家具を配置した館内



図4 木育ワークショップの様子

【担当】

南会津町役場 農林課 林業成長産業化推進室 林業振興係 楠 祐馬

【連絡先】

メール: kusunoki-yuuma@minamiaizu.org

電話: 0241-62-6220

URL: <https://www.town.minamiaizu.lg.jp/>